

明日 への 話題

イノベーション 創出と証券業界 の使命



みずほ証券
取締役社長

さかい たつふみ
坂井 辰史

AIやICT等の技術が革命的な進化を見せている。ビッグデータの活用等を通じた産業構造や社会構造の加速度的な変化は「第4次産業革命」とも言われ、顧客やユーザーのニーズの変化を捉え、産業構造の進化にイノベーションを取り込む視点が不可欠となっている。

金融・証券業界においても、昨年はフィンテックが話題性を持って取り上げられ、日本取引所グループでもブロックチェーン技術の実証プロジェクトが進められる等、多くの取組みが見られた。今年はフィンテック関連プロジェクトの具体的な事業化例が増加するだろう。

産業界全体で見れば課題は多い。イノベーションを支えるベンチャー投資規模では、米国の2015年投資額7兆円超に対し、日本は2015年度約1,300億円と2%にも及ばない。日本には企業や大学に数多くの有望なイノベーションの種があるが、研究指向が強すぎたり、シードマネーや経営ノウハウが不足したり等、事業化には多くの壁がある。これらを乗り越え、大きく育てるために、単一企業やグループを超えて、大学、企業、研究機関、ベンチャーキャピタル等が有機的に連携し、異なる領域の先端的な技術を組み合わせるオープンイノベーションの考え方は重要である。

イノベーション創出に向けて、証券業界にも様々な役割が期待される。資本市場を通じたリスクマネー調達やM&Aに係るアドバイス等は勿論だが、従来と異なりシード・アーリーステージからサポートし、技術を評価できる人材を通して資本市場との接点を見つけていくニーズも高まっている。昨年12月、弊社は、ベンチャー企業、大学、大手企業等にビジネスマッチングや情報交換の場を提供することを目的に、「Innovation Field 2016」と題するフォーラムを開催した。多くの方にお集まり頂き、オープンイノベーションや産官学連携への高い関心が窺われたが、本格的な取組みはまだ始まったばかりと言えよう。私も若いベンチャー企業の経営者とお会いする機会も増えてきており、こうした若い人材の活躍をサポートしていきたい。

証券業界には、革命的な技術革新とイノベーションの動向を的確に捉え、高いプロフェッショナルリズムと先見性を持って、その担い手であるベンチャーや企業に幅広い支援をしていく努力が求められている。延いてはこの取組みが、日本の産業の付加価値向上と国民の長期的な資産形成に寄与することになると考えている。